

講師との距離が近く 生徒同士で教え合う環境が モチベーションを高める

メデュカパスの卒業生は、どのような独自の教育システムを活用したことが、医学部合格につながったのでしょうか。数学科の吉良敏宏講師と、OBの葛西星慶さん（東京医科大学医学部2年）に語り合っていました。

メデュカパス卒業生
（東京医科大学医学部2年）

葛西 星慶さん

数学科講師

吉良 敏宏氏

様々なメリットがある 「Input-Output方式」

吉良 メデュカパスで印象に残っている授業を教えてください。

葛西 「Input-Output方式」の授業を楽しみにしていました。3〜4名の生徒の前で自分の解き方を紹介するのですが、誰でも簡単に解ける問題なら取り上げる意味がありません。適切な問題を探す作業を通して、たくさん問題を復習できるプラスアルファの効果もありました。他の生徒が選んだ問題も歯ごたえがあり、しかも自分とは異なる解き方が参考になります。問題に対して柔軟なアプローチができるようになりました。

吉良 ある意味で出題者の視点で考えることにもなり、入試問題を解く際にも出題者の意図が見えてくるようになります。他の生徒に分かりやすく解説する中で、自己表現力が高まり、面接対策としても有効です。また、葛西君のように他のメンバーが満足する問題を取り上げようとするなど、協調性が身につく、仲間意識が生まれます。それによって、授業以外にも生徒同士が教え合う姿が見られます。

葛西 実は私がメデュカパスを選んだ最大の理由が、生徒同士が教え合う雰囲気と、先生との距離が近い環境でした。現役のときは大手予備校

に通っていたのですが、先生にほとんど質問できないし、友人もできず、勉強のモチベーションが高まらなかったのです。メデュカパスでは、生徒同士の仲が良く、教え合うことで、自分の理解が不足している部分にも気づきますし、誰も分からない場合は一緒に先生に質問に行くこともありました。私は負けず嫌いな性格なので、友人たちは仲間であるとともに、ライバルでもあり、「負けたくない」と、やる気を高める原動力にもなりました。

毎日の「確認テスト」が 知識の定着に役立つ

吉良 また、メデュカパスでは絶対に授業をやりっぱなしにはしません。月曜日から金曜日まで、1日1科目、50分の「確認テスト」を実施します。出題範囲はその前の週の授業で学んだ内容です。1週間後、忘れかけた頃に知識を再確認することで、記憶に定着させやすいからです。さらに、次週の土曜日の午前中に「確認テスト直し」の時間を設けて、間違えた問題に取り組み、全問確実にできるようにするまで解き直します。こうして弱点をつぶしていくわけです。

葛西 「確認テスト」の成績上位者は科目別に名前が貼り出されるので、絶対上位に入ろうと燃えています（笑）。そのために復習に力を